

松尾義海名譽教授の御逝去

會告

京都大学名誉教授、文学博士松尾義海先生は、平成元年二月十七日午後十二時に逝去された。享年七十九才。先生は明治四十二年四月十五日長崎県平戸に生れ、昭和九年三月京都帝国大学文学部哲学科(印度哲学史専攻)を御卒業、同十八年から二十三年まで文学部講師を嘱託され、同年四月文学部専任講師、同年五月助教、同二十八年七月に教授となられた。そして、昭和四十八年四月定年により退官されるまで、戦後の困難な状況の中、四半世紀の長きにわたって印度哲学史講座を担当された。先生は、インド古典期哲学諸派の学説を研究するために、インド論理学の解明が不可欠の要件であると認識から、ニヤヤ学派の御研究を進められ、その貴重な成果を『印度の論理学』(昭和二十二年、弘文堂)、『印度論理学の構造』(昭和二十三年、秋田屋)として発表された。これらの御著書はその後の我が国におけるインドの認識論・論理学研究の著しい発展を端緒づけるものであったが、その中でもとりわけ後者は現在においても聊かも価値を減じていない。さらに、『哲学研究』等の誌上に発表された諸論文では、論理の考究を主要テーマとするニヤヤ学派が、真知を得るための実践としてのヨীগと密接な関連をもつこと等を明らかにされ、これらの御研究を総合して、学位論文『印度論理学派の研究』(昭和二十五年)を完成された。その後、先生はサーン

キヤ、ヴァイシュニカ等の諸学派に関する研究を進められ、『哲学研究』等の誌上において「サーンキヤ哲学における認識について」他数篇の論文を発表された。この他、さらにヨীগ学派の学説綱要書の和訳・解説などもあり、これらインド古典哲学諸派に関わる御仕事を通じて、先生は我が国での原典に基づく印度哲学諸思想の批判的研究の進展に多大の貢献を為された。ここに謹んで、ありし日の先生を偲び心から御冥福をお祈り申し上げます。

平成二年四月二十日

京都哲學會

二 京都哲学会公開講演会記事

昭和六十三年度の京都哲学会公開講演会は、十一月三日(木)午後一時半から、京都大学文学部第七講義室において、左記の演題により、徳永氏、酒井氏の順序で行はれた。

一、「懷疑論」と「不幸な意識」のあとに——Madame La Philosophie se meurt?——

京都大学教授 酒井 修氏

一、中世南インドシヴァ派の宗教儀礼とその世界観

京都大学助教授 徳永 宗雄氏

講演会には、長尾雅人、池田義祐、本吉良治、服部正明、梶山雄一の各名誉教授も出席され、現委員や多数の一般聴衆が会場を埋め、熱気に溢れ、盛会であった。終了後、楽友会館において、両講師を囲み、晩餐を共にしつつ、討論、歓談のひとときが持たれた。最後に、梶山名誉教授より、酒井教授に対し、

多年にわたる『哲学研究』編輯の勞への稿ひの言葉が述べられ、二〇時頃、散会した。

### 三 外国哲学者来訪講演会記事

一、リチャード・ヘア博士(オックスフォード大学名誉教授)

昭和六十三年四月十六日 於文学部

「倫理学と道徳の構造」

### 四 京都哲学会収支決算について

——昭和六十一年度——

前年度繰越金 三、〇〇四、五九四円

本年度収入 二、八八二、〇六一円

本年度支出 二、四一一、七六四円

残額総計 三、四七四、八九一円

(内、積立金 一、四〇〇、〇〇〇円)

——昭和六十二年——

本誌前号(第五百五十五号、二三二頁)において報告済み。

但し同年度の残額総計は二、七九〇、三三一円。

——昭和六十三年度——

前年度繰越金 二、七九〇、三三一円

本年度収入 三三九、五三二円

本年度支出 五一八、六九〇円

残額総計 二、六一一、一七三円

(内、積立金 一、四〇〇、〇〇〇円)

なほ、右については、本学会の会計監査、高田三郎、西川富雄両氏から年度ごとに、監査と御承認をいただいてゐる。

### 五 京都大学文学部哲学科卒業論文題目

——昭和六十二年三月——

#### 哲 学

黄 澈 フッサール『イデー』における「反省」の問題——その絶対性と限界性——

白水土郎 カントに於ける客観的認識の地平としての「経験」

出口康夫 カント『純粹理性批判』における「悟性と感性の結合」について

布施伸生 フッサールの真理・明証・世界

星 信幸 カントにおけるカテゴリーの演繹について

安江将史 前期ハイデガーにおける真理について

高橋祐介 ハイデガー『存在と時間』における「存在理解」の問題

乳久保研志 カントの哲学に於ける定言的命法について

#### 西洋哲学史

小川清次 「意識経験の学」について——ヘーゲル『精神現象学』の基本的考察

田中康照 プラトンの『パイドン』の想起説についての

一考察

佐 藤 正 二 『メノン』におけるソクラテスのアレテー観

印度哲学史

伏 見 誠 Matsya Purāna における Vrata の研究

中国哲学史

松 島 克 之 『抱朴子』内編における理想人の姿

宮 島 忠 史 王陽明『伝習録』についての一考察

村 田 浩 『春秋繁露』三代改制質文篇小攷——辭典を  
手がかりに——

宮 井 秀 基 『淮南子』について——原道訓に見える老子・

庄 子

山 口 英 樹 莊子における科学思想と反科学思想

西 村 斎 陶淵明の思想について

心理 学

生 村 浩 史 「造成法」による時間判断への作業の影響

石 橋 泰 則 色の認識に及ぼす言語の影響の発達の研究

蘭 牟 田 浩 一 ラットの海馬損傷による単絨交替試行課題の  
獲得への影響について

岩 崎 智 子 印象の体制化に及ぼす「思考」の影響

香 川 聖 子 ステレオタイプ及び協同・競争が对人的魅力  
に及ぼす影響について

川 口 里 美 幼児における物語の産出

岸 尾 昌 子 幼児における道徳判断の発生について

駒 野 宏 一 配色の調和・不調和の判断に於ける面積の効  
果

近 藤 静 雄

セメンティック・デファレンシャル法による  
乗り物のイメージの測定

高 橋 宣 雄 援助行動における社会的比較過程

西 田 有 希 子 社会的比較と継時的比較における自己特性お  
よび状況の関連

前 田 理 恵 子

児童の描画における空間関係  
説得内容及び意図の予告が態度変化に及ぼす  
影響

山 岸 美 恵 野

山 田 順 子 幼児における生活空間の認知発達

伊 藤 俊 樹 集団内の非類似性によるソーシヤル・エンテ  
ィティの考察

高 木 浩 人 説得場面におけるコミュニケーターの専門性  
とモダリティ

古 市 敏 雄

獲得情報と対処性の関連  
先行情報がステレオタイプの判断に及ぼす影  
響

真 下 恭 子

中 島 欣 哉 条件文の解釈について

梶 田 幸 宏

印象形成における言語的記憶の役割

倫 理 学

倫 理 学

蔵田 仲雄 カント『人倫の形而上学の基礎づけ』における定言命法と自由について

八幡 英幸 カント『判断力批判』における目的論の批判的吟味について

相原 信也 カント『道徳形而上学原論』の研究

### 美学美術史学

上村 博 感情的空間について

倉森 京子 時代の中のグスタフ・クリムト

長谷部 誠 古代・中世における日本の文様

山下 睦美 パウル・クレーの油彩素描技法の問題

中村 和雄 ワシリー・カンディンスキーの様式について

佐藤 康司 プロセス、あるいは環境としての音楽—ジョン・ケージ以後の現代音楽の状況

浅野 和恵 Arnold Böcklin における死の問題

浜田 秀 富士谷学派の言語観

矢沢 茂理 マニエリスムの絵画

### 社会学

青木 信行 小集団研究におけるジンメル社会学理論の意義

大川 清文 オーディエンスとしての市民の役割分析

加藤 茂樹 資源動員論における「資源処理」視点の考察

鎌田 大資 宗教的組織体の再組織過程の社会学的研究

鈴木 一正 消費社会における流行の社会学的研究

高平 久仁子 現代日本社会における高学歴女性の役割の考察

永谷 健 G・ジンメルにおける「結晶化」のモチーフ

西川 珠代 C・W・ミルズの「動機の語彙」をめぐる考察

丹羽 結花 E・ゴフマンの枠組分析の展開

堀 正道 タルコット・パーソンズの医療社会学—社会システムの原型としての医者—患者関係

黒須 宏志 レジャー論の知識社会学的検討

周藤 由美子 女性研究者のキャリア分析

田中 孝憲 E・ゴフマンの対面相互作用論

野田 浩資 近隣交際と近隣騒音の実証的研究

牧口 誠司 消費社会論から見た日本社会の構造分析

山田 隆章 デュルケムにおける集合意識の考察

草野 修一 農民運動と共同体に関する考察—成田用水をめぐって

後藤 永晋 デュルケムの道徳論の一考察

古川 誠 逸脱分析視角の再検討

### 宗教学

浅井 一行 ハイデッガーにおける有の理解

大利 裕子 キルケゴールにおける「自己」について

軽沢 照文 ジェイムズ『根本的経験論』における世界観

への契機としての「純粹経験」について

仁里文美 元型と関係——アニメ・アニメスをめぐって

細川圭一 ハイデガー『存在と時間』における「世界の  
世界性」について

梅原久美子 悪の問題——アウグスティヌス『真の宗教』  
をめぐって

中島明彦 ブーバアの「我と汝」について

山田大造 ニーチェにおける「永劫回帰」の思想

箱田増美 「行」について——般若心経から説き起こし  
て人間の「生」との関わりをさぐる——

岩本宣明 ベルクソンとハシイディズム

基督教学

吉原 健 旧約聖書におけるケルビムについて

六 京都大学大学院文学研究科（哲学系）

修士課程修了論文題目

——昭和六十二年三月——

哲学

染田 靖 クワインによる翻訳の不確定の議論について

竹山重光 カント哲学に於ける自然の体系性——理性の  
求めるもの

田中茂樹 反省と思弁——ヘーゲル論理学についての—

試論

太田伸一 カントに於ける範疇と理念——演繹と要請

倫理学

亀喜 信 ベルクソンに於ける道徳の基礎

柳沢有吾 フッサール現象学に於ける主体の問題

中国哲学史

仲畑 信 張璠集解を中心とした晋代易学の特徴

南沢良彦 王肅とその学問——漢魏の経学についての—  
考察

西洋哲学史

上枝美典 トマスにおける真理の問題

菊地伸二 『知恵の書』 11・21 'Omnia in mensura  
et numero et pondere dispositi』をめぐ  
るアウグスティヌスの解釈

三浦 要 パルメニデスに於ける真理と *λόγος* ——「有  
る」に対する *λόγος* の意味について——

鎌田雅年 ソクラテスの「人間並みの智慧（アントゥロ  
ーピネー・ソピアー）」——プラトンの『ソク  
ラテスの弁明』における——

宗教学

清水茂雄 エックハルトの「突破」の教説に於ける根本問題について

松井吉康 エックハルトの「魂における神の子の誕生」について

森本 聡 プロテイノスに於ける世界構造の矛盾について

吉永進一 歴史と聖なるもの——エリアーデにおける歴史の兩義性

林 伸一郎 *Décration* をめぐって——Simone Weil 思想における——

### 仏教 学

船山 徹 Dharmakīrti における *Yastu*, *bhāva*, *Srabhāva* の概念とその関係

### 基督 教学

久山道彦 オリゲネス『原理論』に於ける悪の問題——懈怠 (*neglegentia*) をめぐって——

信岡茂浩 キェルケゴール『死に至る病』に於ける絶望と罪

### 心理 学

安藤広志 視覚的テクスチャーにおける密度差検出——面積・背景密度・偏心度の効果

上田和夫 音色の表現語に階層構造は存在するか  
塚本 奈穂子 文章理解における視点の役割——授受表現を中心に——

西田 真也 角度錯視を誘導するドット構成線分の検討  
山本 登志哉 幼児期に於ける「先占の尊重」原則の形成

### 社 会 学

串田 秀也 E・ゴフマンの対面的相互作用論の検討  
近藤 哲郎 M・フーコーの権力論の視角と方法  
田間 泰子 Alfred Schütz の *ノマディック* ション論の検討

### 美学美術史学

加須屋 誠 子鳥曼荼羅研究

七 京都大学大学院文学研究科(哲学系)

博士後期課程学修者氏名

——昭和六十二年三月——

哲学専攻……伊勢俊彦 佐野之人 品川哲彦 中 敬夫

中釜浩一 望月俊孝 斎藤稔章

倫理学専攻……前田義郎 本田裕志

中国哲学史専攻……小林清市 坂内栄夫 中 純夫

西洋哲学史専攻……岸見一部 林 明弘 森 泰一

宗教学専攻……垂谷茂弘 江口みりあむ

仏教学専攻……佐々木 閑

心理学専攻……村瀬俊樹 野崎直美

社会学専攻……鶴飼正樹 加藤一己

美学美術史学専攻……河野道房 鷹羽良明 吉岡留美

中村俊春

### 八 京都大学文学部哲学科講義題目

——昭和六十二年度——

※二回生が履修できる専門科目

〔共〕大学院と共通

〔院〕大学院のみ

### 哲 学

講義 助教授 木曾 好能 ※哲学概論  
研究 助教授 安井 邦夫 現代論理学

” ” 講師 井上 庄七 ホップス哲学の諸問題

” ” 講師 常俊宗三郎 現象学の特性

演習Ⅰ 助教授 木曾 好能 Hume: *A Treatise of Human Nature*

演習Ⅱ 助教授 木曾 好能 *Quine: Word and Object*, 1960

演習Ⅱ 助教授 西谷 裕作 Descartes: *Les Méditations métaphysiques* (倫理学と共通)

演習 講師 薮木 栄夫 Kant: *Kritik der reinen Vernunft*

演習Ⅲ 助教授 木曾 好能 哲学の諸問題(大学院学生必修)

### 西洋哲学史

講義 教授 藤澤 令夫 ※西洋古代哲学史概説

” ” 助教授 山本 耕平 ※西洋中世哲学史概説

” ” 教授 酒井 修 ※西洋近世哲学史概説

研究 教授 藤澤 令夫 プラトンの宇宙論 初期ギリシア哲学の諸問題

” ” 講師 内山 勝利 形而上学の諸問題

研究 助教授 山本 耕平 トマスの *De Veritate* をめぐる諸問題

” ” 人文研 山下 正男 中世の倫理思想(キリスト教学と共通)

” ” 講師 稲垣 良典 批判、懐疑および構築

” ” 教授 酒井 修 *Recherches pascaliennes*(フランス語学フランス文学・キリスト教学と共通)

” ” 教授 廣田 昌義 生物社会の構造と進化(心理学と共通)

” ” 理学部 寺本 英

	部教授	瀬地山 敏	理論経済学の基本問題(社会学と共通)	〔共〕	講師	中川 純男	Augustinus: De Civitate Dei	〔共〕	
”	講師	隈元 忠敬	ソレヒナの哲学	〔共〕	”	講師	小浜 善信	Thomas Aquinas: De Unitate Intellectus Contra Averroistas	〔共〕
”	講師	藪田 坦	無限と超越(宗教学と共通)	〔共〕	”	教授	酒井 修	G.W.F. Hegel: Wissenschaft der Logik.	〔共〕
演習Ⅰ	教授	藤澤 令夫	Platon: Leges VI. 753A7~(西洋古典語学西洋古典文学と共通)	〔共〕	”	教授	Eberhard Scheffele	Kants Geschichtsphilosophie (2): Immanuel Kant, Werk-ausgabe, Bd. 11, hrsg. von Wilhelm Weischedel, Frankfurt a. M., 1977.	〔共〕
演習Ⅱ	教授	藤澤 令夫	Aristoteles: Ethica Nicomachea V. 9~	〔共〕	”	教授	木村 彰吾	Edmund Husserl: Cartesianische Meditationen.	〔共〕
演習	助教授	中務 哲郎	Homeros: Ilias I.1~(西洋古典語学西洋古典文学と共通)	〔共〕	”	講師	山形 頼洋	Henri Bergson: Matière et Mémoire	〔共〕
演習Ⅰ	助教授	山本 耕平	Thomas Aquinas: Summa Theol. I, q. 75, a. 1	〔共〕	”	講師	山野 耕治	W. Jaeger: Paideia, die Formung des griechischen Menschen. Bd. I	〔共〕
演習Ⅱ	助教授	山本 耕平	Thomas Aquinas: Summa Theol. I-II, q. 5, a. 3	〔共〕	”	講師	小池 澄夫	Platon: Protagoras (論理学と共通)	〔共〕
演習Ⅲ	助教授	山本 耕平	Thomas Aquinas: Commentaria in Metaphysica Aristotelis I, I, 1, 8	〔共〕	”	講師	酒井 修	※ Immanuel Kant: Erste Einleitung in die Kritik der Urteilstkraft	〔共〕
演習	講師	宮谷 宣史	Augustinus: De Doctrina Christiana (キリスト教学と共通)	〔共〕	”	講師	酒井 修	※ Immanuel Kant: Erste Einleitung in die Kritik der Urteilstkraft	〔共〕



” 助手 小沢 和道 ※ Augustinus: Soliloquia

印度哲学史

講義 助教授 徳永 宗雄 ※インド思想史

研究 教授 服部 正明 古典インドの言語理論 [共]

研究 助教授 徳永 宗雄 古典ヨーロッパ体系の研究 [共]

” 人文研 助教授 井狩 弥介 ブラーフマナからウパニシャットへ(仏教学、梵語学梵文学と共通) [共]

” 講師 永ノ尾信悟 ヴェーダ祭祀研究(梵語学梵文学と共通) [共]

” 講師 正信 公章 ヴェーダーンタ研究 [共]

” 教授 服部 正明 Vaisesikadarśanam [共]

” 助教授 徳永 宗雄 Purāṇetihasasamgraha (梵語学梵文学と共通) [共]

” 助教授 小林 信彦 サンスクリット演習Ⅰ(梵語学梵文学、仏教学と共通) [共]

” 人文研 助手 赤松 明彦 Pramaṇavārtika I (Svārthanumāna)(仏教学と共通) [共]

” 語学講師 正信 公章 ※サンスクリット文法(各学科共通サンスクリット語、仏教学、西南アジア史学、梵語学梵文学と共通)

中国哲学史

講義 助教授 池田 秀三 ※中国思想史

研究 助教授 池田 秀三 後漢中後期の学術と思想 [共]

” 人文研 教授 吉川 忠夫 六朝思想史の諸問題(東洋史学と共通) [共]

” 講師 大西 晴隆 陽明学の生成 [共]

研究 講師 澤田多喜男 先秦漢初期思想史の諸問題 [共]

” 助教授 池田 秀三 『通典』礼部 [共]

” 人文研 教授 尾崎雄二郎 説文解字注(中国語学中国文学と共通) [共]

” 助教授 西脇 常記 道宣『統高僧伝』 [共]

” 人文研 助手 三浦 秀一 王陽明『大学問』を中心に [共]

” 助教授 武田 時昌 ※大戴礼記解詁

” 心理學 講義 教授 平野 俊二 ※心理学概論

” 教授 清水御代明 思考心理学

” 教育学部 教授 坂野 登 教育心理学(教育学部と共通)

” 教授 平野 俊二 記憶の生物心理学 [共]

” 助教授 宇阪 直行 周辺視機構論 [共]

理学部 寺本 英 生物社会の構造と進化(西洋哲学史と共通) [共]

教養部 中島 誠 発達心理学 [共]

教養部 江島 義道 視覚の心理学 [共]

助教授 河野 敬雄 数理統計学特論 [共]

講師 岡本 夏木 象徴の心理学的機能 [共]

講師 吉田 正昭 味・嗅・触覚の官能検査 [共]

講師 辻 敬一郎 生態学的行動論 [共]

講師 糸魚川直祐 社会化に関する比較行動学的研究(教育学部と共通) [共]

講師 須賀 哲夫 認知の心理学(教育学部と共通) [共]

心理学演習Ⅱ

心理学演習Ⅰ

心理学特殊実験(実験乙)

心理学基礎実験(実験甲)

※統計基礎実習

英書講読(J.F.Cutting, Percep-

tion with an eye for motion, 1986.)

現代心理学の諸問題 [院]

社会現象の解析と理論化 [院]

※倫理学概論

日常性と超越——魂の問題——

行為と主体性の問題 [共]

自己と他者 [共]

倫理学の諸問題 [共]

Descartes: Les Méditations métaphysiques (哲学と共通) [共]

A.N. Whitehead: Symbolism, Its meaning and effect (宗教学と共通) [共]

Kant: Grundlegung zur Metaphysik der Sitten (PhB版) [共]

平野 俊二

清水 御代明

清水 御代明

平野 御代明

清水 御代明

研究

研究

研究

研究

研究

研究

研究

研究

研究

研究

研究

研究

研究

研究

研究

研究

研究

研究

研究

研究

研究

研究

研究

研究

研究

研究

研究

講 師 深谷 昭三 M. Scheler: Wesen und Formen der Sympathie [共]

講 師 西谷 裕作 W. James: Pragmatism [共]

講 師 榎形 公也 S.Kierkegaard: Die Krankheit zum Tode (übersetzt von L. Richter) (Syndikat/EVA Bd. 24) (キリスト教学へ共通) [共]

講 師 小池 澄夫 Platon: Protagoras (西洋哲学史・学部と共通) [共]

講 師 北村 清彦 Mikel Dufrenne: Phénoménologie de l'expérience esthétique Kunst

講 師 西村規矩夫 ネーデルランド絵画史 [共]

講 師 吉岡健二郎 美学美術史学の諸問題 [院]

助 教 授 清水 善三 } 美術史学の実地指導 [共]

助 教 授 佐々木丞平 } 日本近世絵画史料選読

助 教 授 佐々木丞平 } A.v. Hildebrand: Das Problem der Form in der bildenden Kunst

助 教 授 佐々木丞平 } Mikel Dufrenne: Phénoménologie de l'expérience esthétique

助 教 授 佐々木丞平 } Kunst

助 教 授 佐々木丞平 } Mikel Dufrenne: Phénoménologie de l'expérience esthétique

助 教 授 佐々木丞平 } Kunst

助 教 授 佐々木丞平 } Mikel Dufrenne: Phénoménologie de l'expérience esthétique

助 教 授 佐々木丞平 } Kunst

美学美術史学

講 義 教授 吉岡健二郎 ※美学概説

教 授 清水 善三 ※日本美術史概説

教 授 吉岡健二郎 芸術解釈の問題

教 授 清水 善三 鎌倉彫刻史の研究

助 教 授 佐々木丞平 日本文人画の研究

教 養 部 乾 由明 十九世紀フランス絵画史 [共]

教 養 部 新田 博衛 美術史学の方法 [共]

人 文 研 究 曾布川 寛 中国石窟寺院の研究 [共]

講 師 中野 玄三 六道絵論 [共]

講 師 太田 孝彦 室町水墨画の研究 [共]

社会学

講 義 教授 中 久郎 ※社会学概論

教 授 宝月 誠 社会人間学

教 養 部 米山 俊直 三都の文化比較 [共]

經 済 学 部 瀬地山 敏 理論経済学の基本問題(西洋哲学史と共通) [共]

教 養 部 高沢 淳夫 公共空間の実証的研究 [共]

人 文 研 究 富永 茂樹 トクヴィルを読む [共]

助 教 授 高橋 由典 感情研究への社会学的接近 [共]

研究	講師	青木 康容	政策過程の社会学	[共]					
"	講師	村井 研治	ソ連の社会と家族	[共]					
"	講師	岩崎 信彦	貨幣と価値——経済と社会の接点	[共]	演習	教授	応地 利明	地域の諸問題(地理学と共通)	[院]
"	講師	佐藤 慶幸	ヴォランタリズムとアソシエーションの社会学	[共]					
演習Ⅰ	教授	中 久郎	社会学の諸問題(4回生以上は必修)	[共]					
演習Ⅱ	教授	宝月 誠	社会学方法論	[共]	講義	助教	長谷 正当	※宗教学概論	
演習Ⅲ	教授	宝月 誠	社会人間学の諸問題	[共]	研究	教授	上田 閑照	自覚から場所へ	[共]
講読	助手	進藤 雄三	英書講読(R. Collins, Three Sociological Traditions)	[共]	"	講師	藪田 垣	無限と超越(西洋哲学史と共通)	[共]
"	助手	山下 雅之	仏書講読(R. Boudon, <i>Video-logie</i> )	[共]	"	講師	華園 聡磨	信仰類型論をめぐる諸問題(仏教学と共通)	[共]
研究	東南ア研 教授	坪内 良博	人口社会学の基本問題	[院]	演習Ⅰ	教授	上田 閑照	M. Heidegger: Die onto-theo- logische Verfassung der Metaphysik ("Identität und Differenz" 1957)	[共]
"	講師	筒井 清忠	歴史社会学の諸問題	[院]					
演習Ⅰ	教授	中 久郎	現代社会学の諸問題	[院]	演習	教授	山本 誠作	A.N. Whitehead: Symbolism, Its meaning and effect (倫理 学と共通)	[共]
演習Ⅱ	助教	高橋 三郎	文化社会学の諸問題	[院]					
演習	併任 教授	坪内 良博	比較社会学の諸問題	[院]	"	講師	田中 英三	H. Bergson: Le deux sources de la morale et de la religion	[共]
研究	併任 助教	筒井 清忠	比較歴史社会学の視座	[院]	"	講師	川村 永子	H. Thielicke: Glauben und	[共]



- ” 講師 森田雄三郎 J. ヒドワース [共]  
 演習 教授 水垣 渉 キリスト教学基礎演習 [共]  
 ” 教授 水垣 渉 Origenes: Commentarii in Ioannem I [共]  
 演習 講師 勝村 弘也 古典（ギリ語文法及び「五書」  
 原典講読 (I. Weingreen: A  
 Practical Grammar for Classical Hebrew) (西南アジア史  
 学へ共通) [共]

- ” 講師 宮谷 宣史 Augustinus: De Doctrina Christiana (西洋哲学史へ共通) [共]  
 ” 講師 川村 永子 H. Thielicke: Glauben und Denken in der Neuzeit (宗教学へ共通) [共]  
 講読 講師 梶形 公也 S. Kierkegaard: Die Krankheit zum Tode (übersetzt von L. Richter) (Syndikat/EVA Bd. 24) (倫理学と共通) [共]

### 九 「日本学術会議だより」 内容紹介

第十号—昭和六十三年八月

〔総見出し〕「日本学術会議第百五回総会報告

〔内容項目〕「第十四期日本学術会議会員の辞令交付式等に

ついて」、「第十四期日本学術会議役員」、「対外報告について」、「第十四期日本学術会議会員の概要について」。  
 第十一号—昭和六十三年十一月  
 〔総見出し〕「日本学術会議第百六回総会報告」  
 〔内容項目〕「第十四期活動計画」。

〔本五五六号の編輯について〕

本五五六号の編輯および刊行にあたっては、彙報作成の大半と校正の半ばを編輯担当者（本号は浜野）が、他の一切（企画、執筆依頼、編輯および編成の一切と校正の半ばを含む）は先任編輯代表者（第五四〇号以降、酒井）が担当したこと、第五四〇号以降の通例の通りである。なほ先任編輯代表者の残務は本号を以て終了する。